

「質問」-1

○ジベレリンおよびジャスモン酸処理を組合わせたでん粉原料用馬鈴しょの多収栽培技術の開発について

- (1) ジャスモン酸は、果樹野菜では開花や結果に作用するとのことですが、馬鈴しょに散布した際に、開花時期や花数に目立った変化はあったのでしょうか。
- (2) 農薬の適用拡大は未登録とのことですが、仮に使用することを想定した場合、「追肥」と比較してコストや技術としての安定性については、どのようにお考えでしょうか。

「回答」-1

お問い合わせありがとうございます。

- (1) ジャスモン酸の花への影響については、開花時期・花数への影響は認められませんでした。処理時期がすでに花芽が分化した着雷期だったということもあるかもしれませんが、花も含めて、地上部への影響は認められませんでした。
- (2) コスト的には追肥と変わらないと思います。ジベレリンは種いもの消毒時に水槽に 10ppm の濃度になるよう入れるだけなので、大型コンテナが入るような水槽であっても大した薬量にはならないと思われますし、ジャスモン酸は 500 倍希釈であれば、1 回に 250ml/10a 程度で済むので、2 回行ったとしても、500ml 入りが 1 本 3,000~4,000 円/10a 程度で済むと思います。

「質問」-2

○でん粉原料用ばれいしょ「コナヒメ」の安定生産のための栽培法について

「コナヒメは軟腐に強い品種なのですか？」

昨年みたいに高温・多湿が良そうされる場合は疫病防除の際に軟腐農薬も毎回混ぜたほうが賢明でしょうか？

また、防除初期段階にリライアブルやゾーベックを散布していますが効果はありますか？

「回答」-2

お問い合わせありがとうございます。

- (1) コナヒメでも雨の多い年には軟腐病が圃場で発生しているのを確認しています。多収生産者の事例紹介でもコナヒメの軟腐病防除について重要な要素の一つとして挙げられ、早めの開始、適期防除が挙げれます。
- (2) 腐病の発病は、小葉が地面に接地した部分から始まります。この接地葉の発病初期から防除を開始する必要があり、遅れると防除効果は低下しています。発生初期から 1 週間間隔での散布が良いです。
- (3) 近年は軟腐病の多発が問題となっており、早めの防除を開始することが大切です。
- (4) リライアブルやゾーベックは、疫病に対する防除効果が高い剤で残効も長く、塊茎腐敗防除の時期でなくても、茎葉の疫病防除に有効です。
- (5) ゾーベック剤はメーカーさんが耐性菌の発生が起きないよう、蔓延前の初期のうちに 1 回だけ散布することを推奨しており、発生初期に入っている事例が多いと思います。なお近年は、高温傾向のため夏疫病の発生も多くなっていますので、夏疫病の防除にも注意をした方が良いでしょう。